



イーグル・クロー作戦

在イラン・アメリカ大使館人質事件の解決を目指した果敢な挑戦

予備役ブルーリボンの会シンポジウム

令和6年6月22日(土) 拓殖大学文京キャンパス

イーグル・クロー作戦

- 作戦の背景
- 作戦の計画
- 作戦の準備
- 作戦の実行
- 教訓と対策

イーグル・クロー作戦

- 作戦の背景
- 作戦の計画
- 作戦の準備
- 作戦の実行
- 教訓と対策

イラン革命

- **パーレビ国王**の西欧化・近代化政策に対する抗議活動が激化し、国王が**イランを脱出した**。
- 1979年2月5日、ホメイニーが**暫定革命政府を樹立した**。



1977年11月15日、ホワイトハウスで公式晩餐会に参列するカーター大統領とパーレビ国王



パーレビ国王の訪米中に行われた反国王勢力による抗議活動

人質事件の発生

- 病気治療のためパーレビ国王がアメリカに入国するとホメイニーはアメリカの対応を強く批判した。（アメリカとイランの敵対関係が決定）
- 1979年11月4日、学生グループが大使館を占拠、66人のアメリカ人を拘束した。（イーグル・クロー作戦までに13人、その後さらに1人を解放）



アメリカ大使館を占拠した学生たちと門に押し寄せるイラン人群众



アメリカに対する怒りをあらわにするイラン人群众

イーグル・クロー作戦

- 作戦の背景
- **作戦の計画**
- 作戦の準備
- 作戦の実行
- 教訓と対策

計画立案

- アメリカは**平和的解決**を追求しつつ、**人質救出作戦**を含む**軍事的な選択肢**を準備した。
- 11月12日には**デルタ**を主体とする**第1-79統合任務部隊**を編成した。
- 11月16日（事件発生約2週間後）には**作戦の基本構想**を決定した。



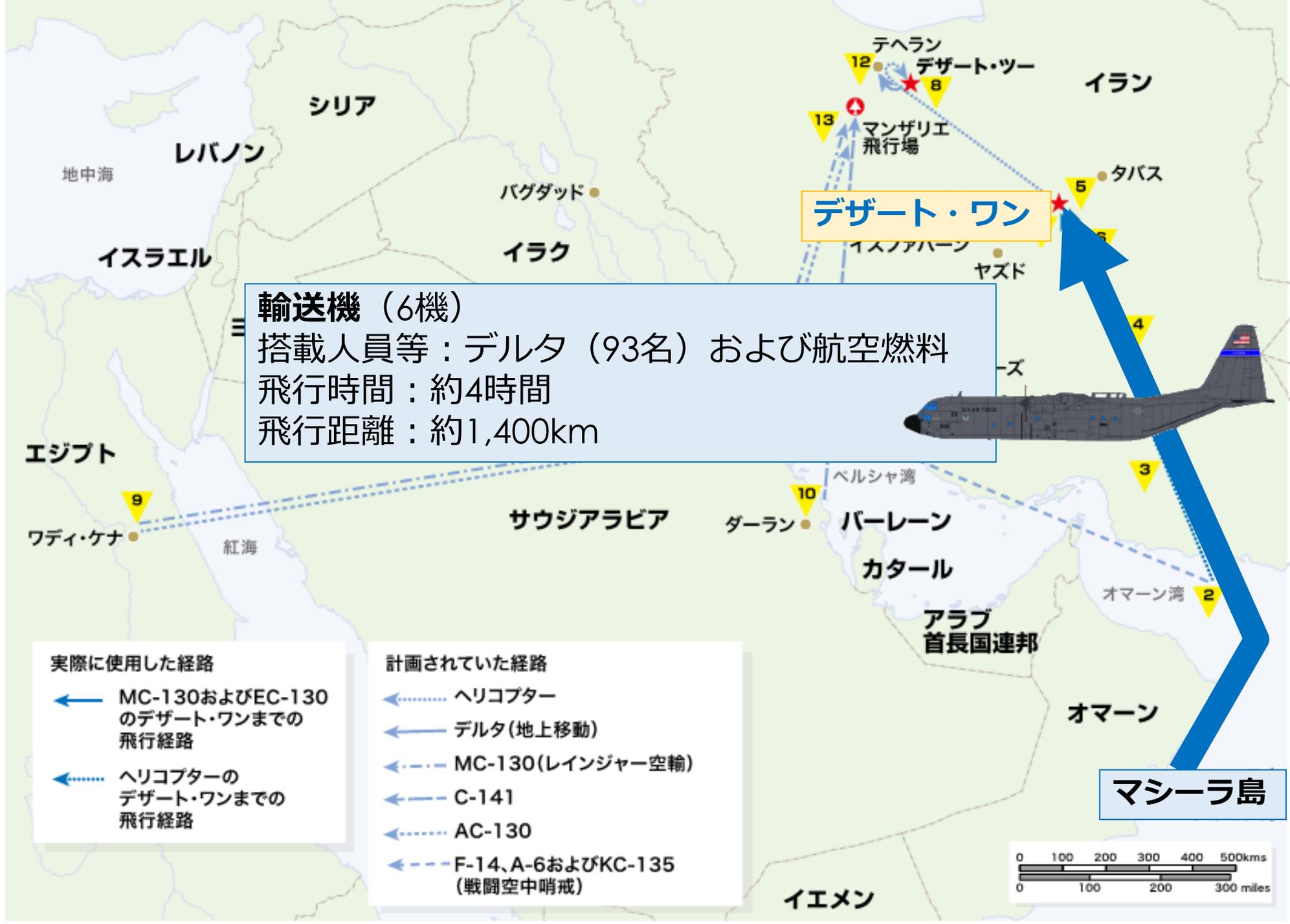
(左から右へ) デルタの隊員（陸軍）、空母（海軍）、輸送機（空軍）、輸送ヘリコプター（海兵隊）

作戦全般



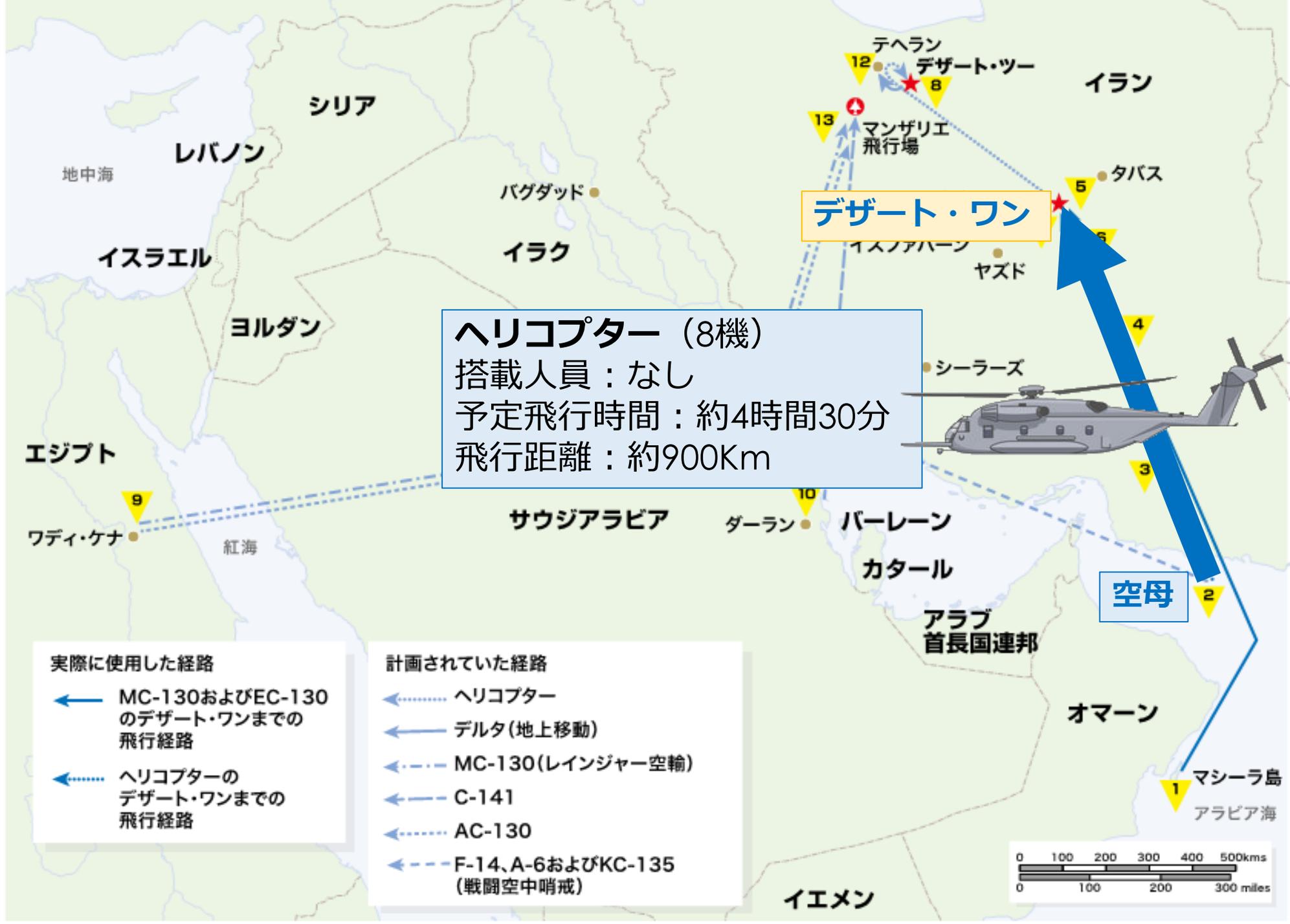
作戦第1夜

デザート・ワン
への推進



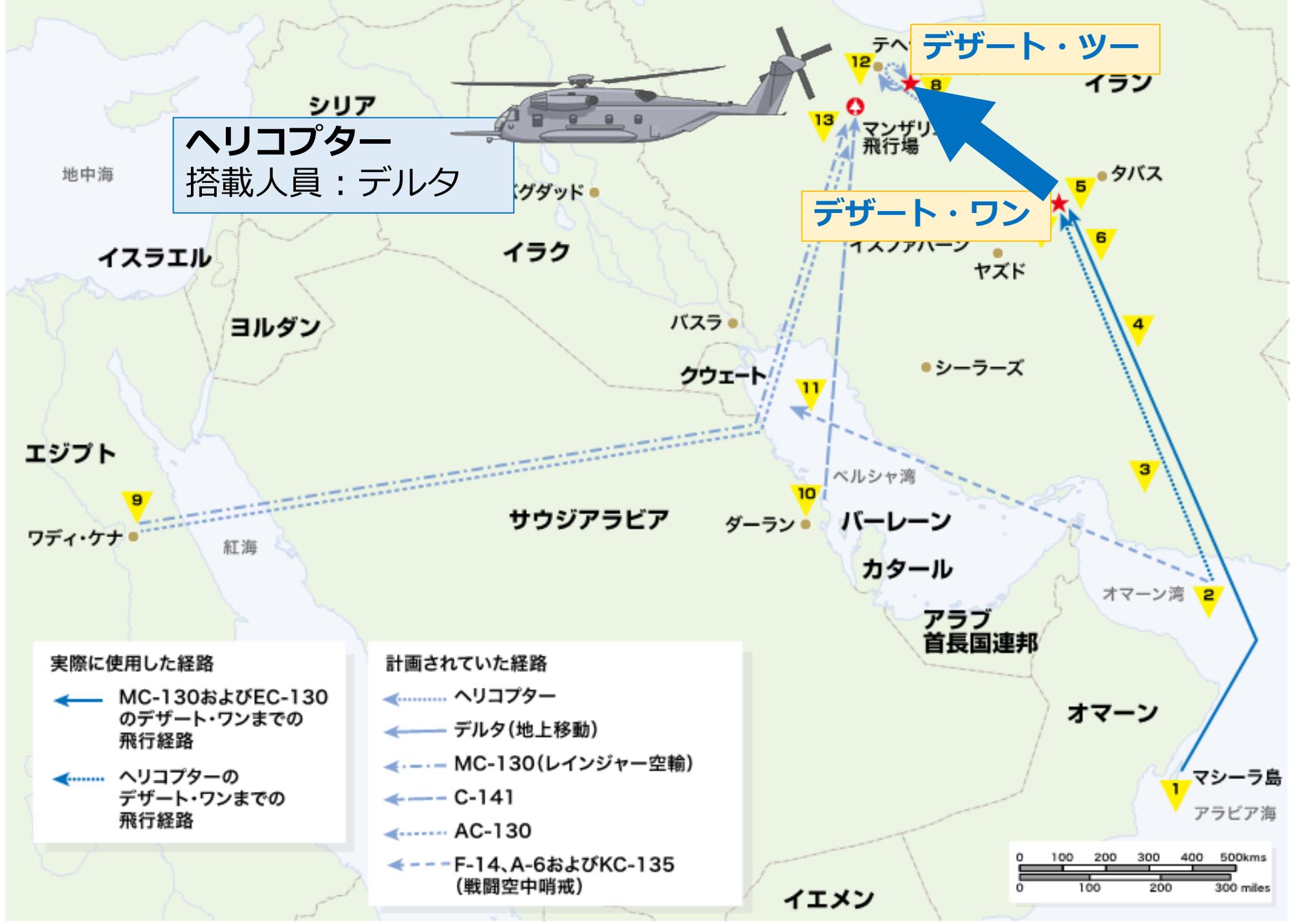
作戦第1夜

デザート・ワン
への推進



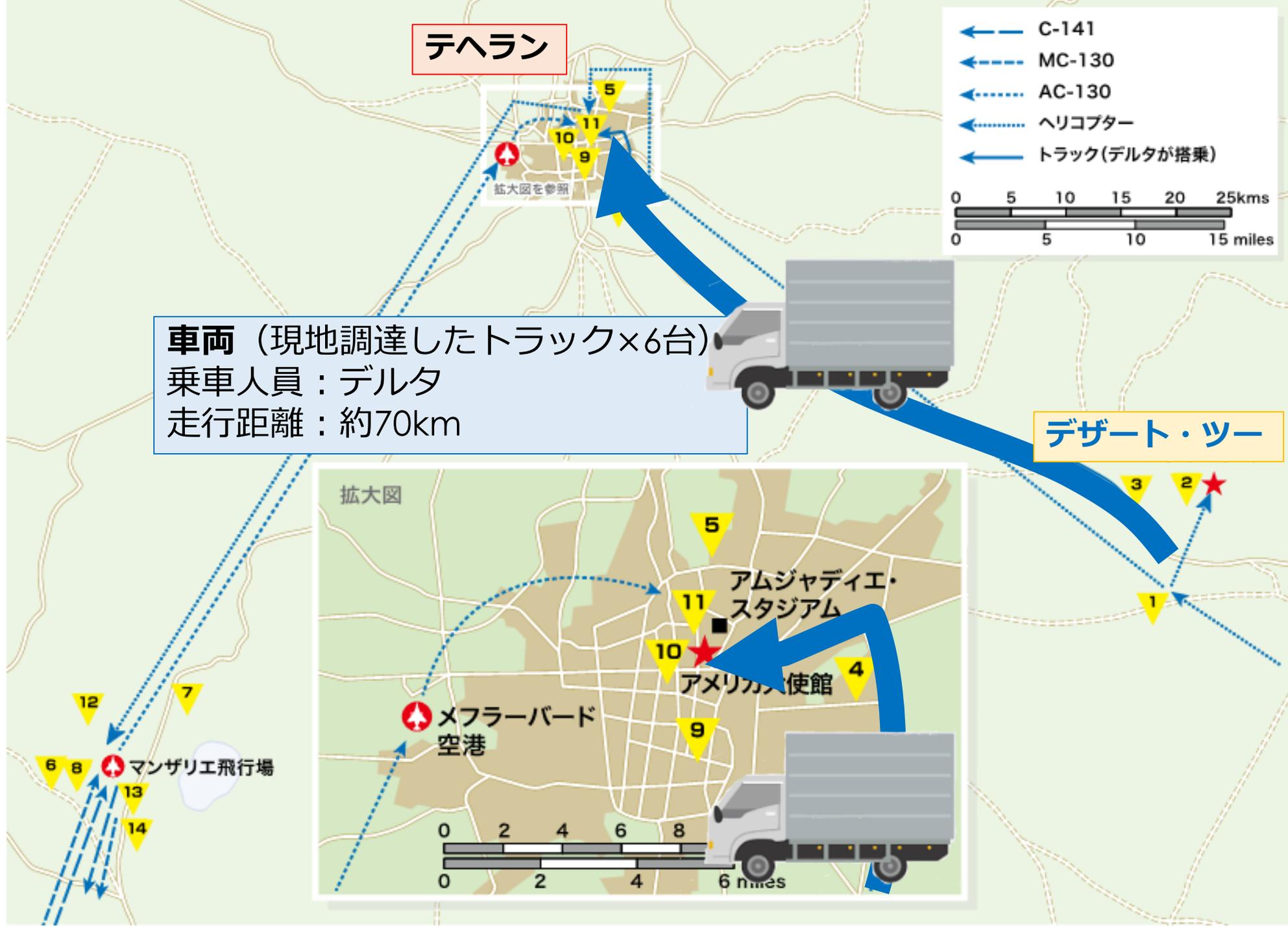
作戦第1夜

デザート・ツー
への推進



作戦第2夜

デルタの前進



作戦第2夜

ヘリコプターの
前進



作戦第2夜

デルタの突入・
人質救出



作戦第2夜

人質およびデルタの
回収・離脱

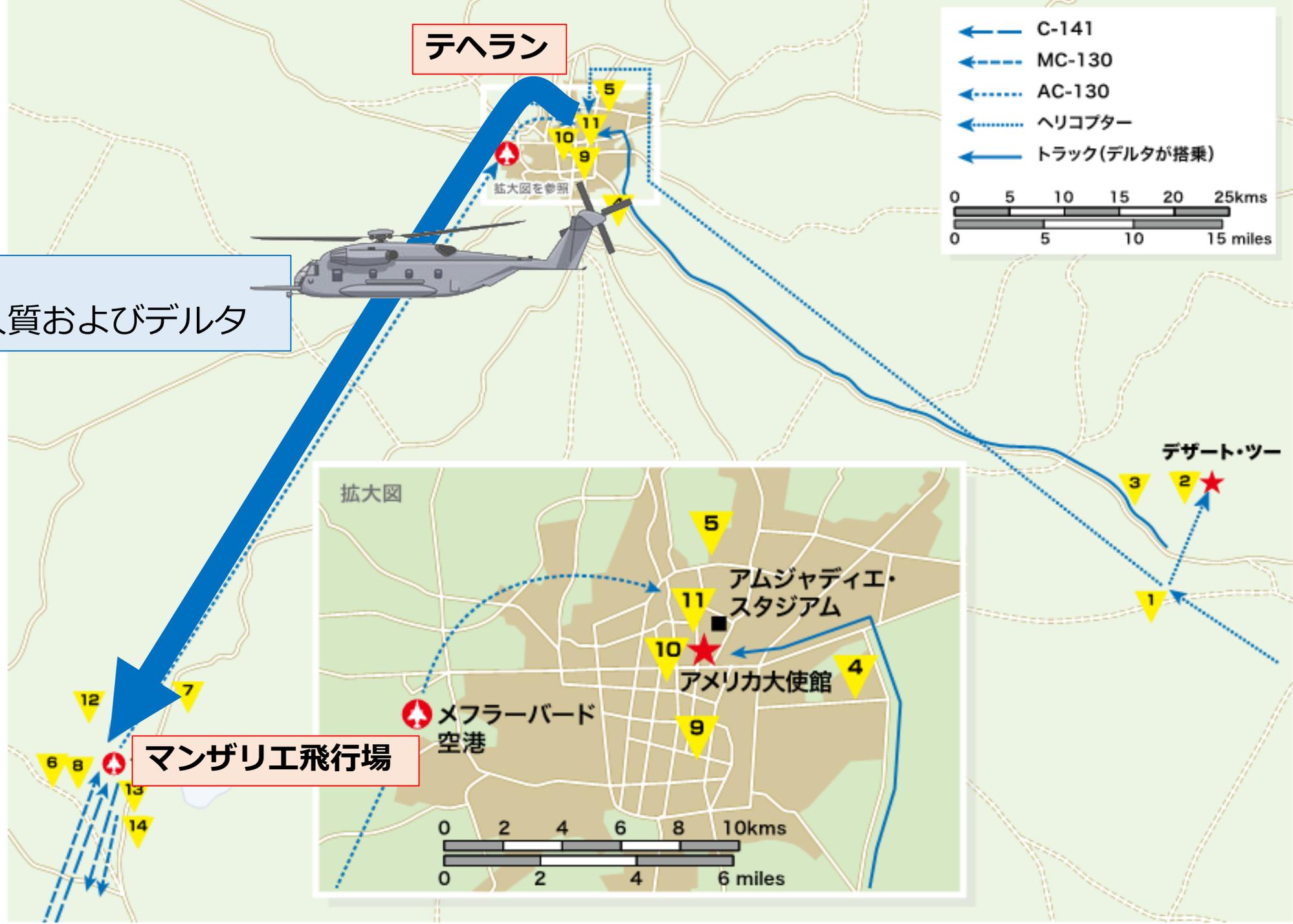


作戦第2夜

マンザリエ飛行場までの推進

ヘリコプター

搭載人員：元人質およびデルタ



テヘラン

マンザリエ飛行場



作戦第2夜

マンザリエ飛行場の確保

輸送機および攻撃機（8機）
搭乗人員：レインジャー（約100名）

ワディ・ケナ

実際に使用した経路

- ← MC-130およびEC-130のデザート・ワンまでの飛行経路
- ← ヘリコプターのデザート・ワンまでの飛行経路

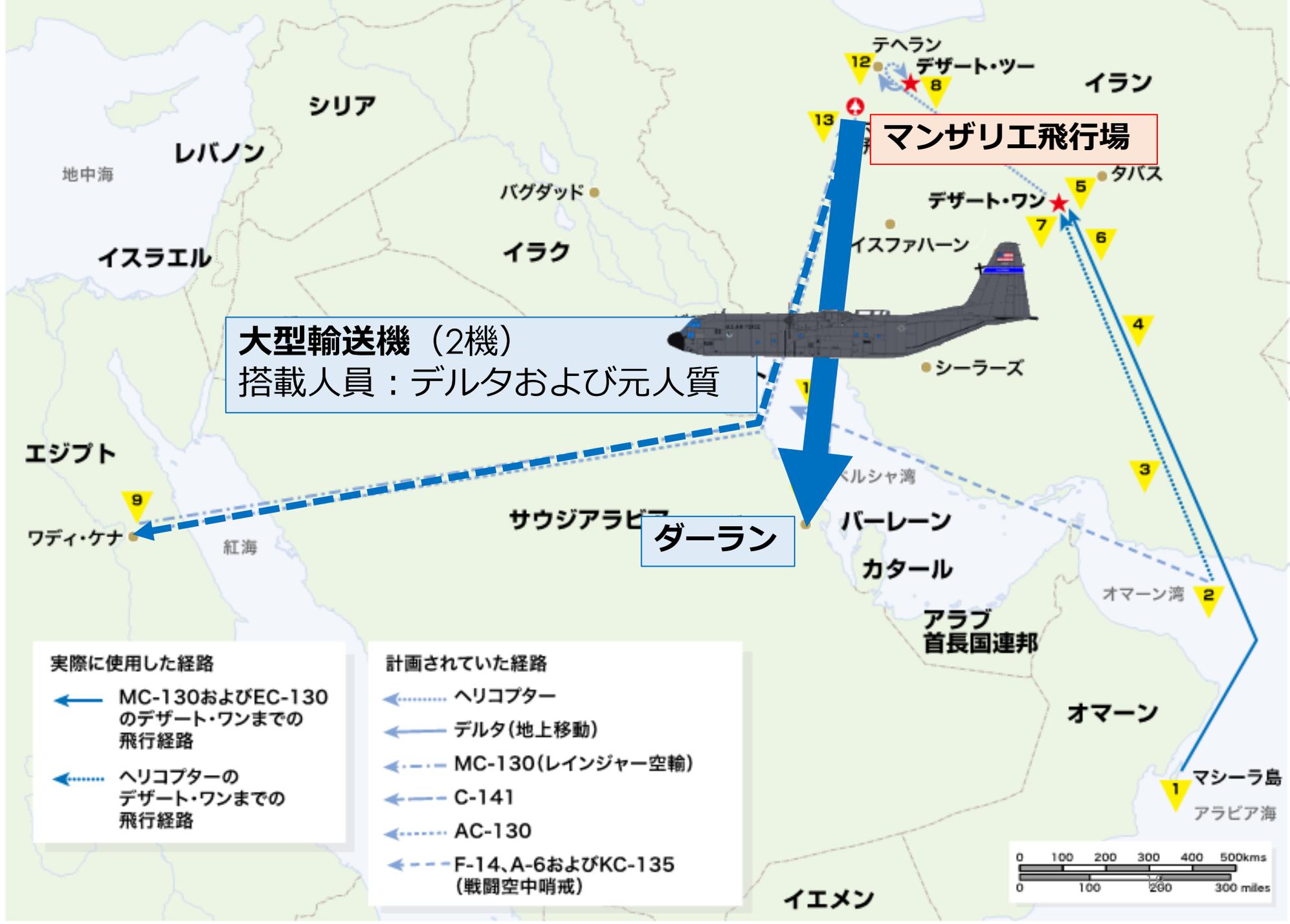
計画されていた経路

- ←..... ヘリコプター
- ← デルタ(地上移動)
- ←- - - MC-130(レインジャー空輸)
- ←- - - C-141
- ←..... AC-130
- ←- - - F-14、A-6およびKC-135(戦闘空中哨戒)



作戦第2夜

ダーランまでの
空輸



イーグル・クロー作戦

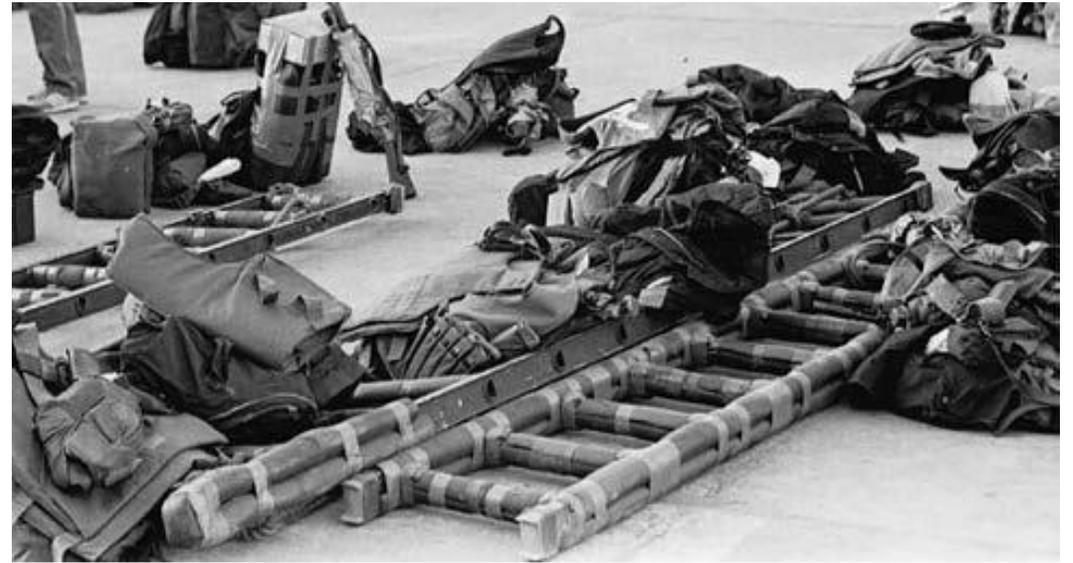
- 作戦の背景
- 作戦の計画
- **作戦の準備**
- 作戦の実行
- 教訓と対策

特殊作戦部隊の準備

- 潜入要員による偵察を行った。
- 大使館への突入・救出訓練を行った。
- ソヴィエトのスパイ衛星に発見されないよう着意した。



作戦準備に使用された大使館敷地の模型（出典：アメリカ陸軍空挺および特殊作戦博物館）



突入用に準備されたハシゴ

輸送機の準備

- **MC-130E輸送・特殊作戦機、EC-130E輸送機およびAC-130H攻撃機**を使用することに決定した。
 - ・ 夜間に飛行できる。
 - ・ 未舗装の滑走路で離着陸できる。
- 暗視眼鏡を用いた**完全無灯火**での着陸要領を検討し、訓練した。



MC-130E (出典 : Wikipedia)



AC-130H (出典 : Wikipedia)

ヘリコプターの準備

- RH-53D掃海ヘリコプターを使用することに決定した。
 - 空母に搭載されていても違和感がない。
 - 甲板の下に格納できる。
 - 搭載可能人員数が多く、航続距離が長い。
- 搭乗員には、主に**海兵隊のパイロット**が選ばれた。



空母に格納後、薄茶色に塗装されたRH-53D



任務開始数時間前に飛行甲板に姿を表したRH-53D

戦闘・攻撃機の準備

- 空母に搭載された戦闘機や攻撃機も戦闘準備を整えた。



F-14戦闘機（左上）、F-4N戦闘機（左下）、A-7攻撃機（右上）、A-6攻撃機（右下）

イーグル・クロー作戦



■ 作戦の背景

■ 作戦の計画

■ 作戦の準備

■ **作戦の実行**

■ 教訓と対策

作戦開始

- 4月11日（事件発生から約5ヶ月後）、イーグル・クロー作戦の実施を決定した。
- 4月24日早朝、デルタは祈りを捧げたのち**作戦を開始**した。



ワディ・ケナの格納庫で祈りを捧げるデルタ

デザート・ワンへの前進

- **輸送機**は6機全てが前進を完了した。
- **ヘリコプター**は、8機中3機が任務に使えなくなった。
 - 1機目：**ローター・ブレードの不具合**で不時着
 - 2機目：**電気系統が故障**し帰投
 - 3機目：**油圧系統の不具合**で飛行不能
- 必要機数（6機）を下回ったため**作戦中止を決心**した。



空母上空を飛行するヘリコプター（作戦開始前）

事故の発生

- 1機のヘリコプターが輸送機に激突、8名が死亡した。



各方面の反応

- マスコミは、作戦の失敗を強烈に**非難**した。
- 世界各国は、突然に作戦を実行したアメリカを**非難**した。
- ハーグ国際司法裁判所もアメリカに対する**問責決議案**を可決した。
- ただし、**アメリカ議会**は2人を除き作戦の**実行を支持**した。



EC-130の残骸



RH-53Dの残骸

イーグル・クロー作戦

- 作戦の背景
- 作戦の計画
- 作戦の準備
- 作戦の実行
- **教訓と対策**

新たな救出計画の立案

- ヘリコプターを使わない作戦が必要と考えられた。
- **スノー・バード作戦**および**ティン・ホーン作戦**を計画した。
- 1981年1月20日（事件発生から14ヶ月後）に**人質（52人）が解放**された。
 - ・ イラン・イラク戦争の勃発によりアメリカにより凍結されていた110億ドルの資産が必要になったため



試験飛行中のクレディブル・スポーツ機



解放されて西ドイツに到着した人質

新たな軍の創設

- **対テロ作戦専門部隊**の創設が必要と考えられた。
- 1986年、各軍の特殊部隊を統合指揮する**アメリカ特殊作戦軍**を創設した。



空軍の特殊部隊員 出典：Wikipedia



陸軍の特殊作戦ヘリコプター
出典：Wikipedia

新たな航空機の開発

- より遠くまで速く飛び、垂直離着陸できる航空機が必要と考えられた。
- 2005年、ティルトローター機である**V-22オスプレイ**の開発を完了した。



ヘリコプター・モードで飛行するオスプレイ
出典：Wikipedia



エアプレーン・モードで飛行するオスプレイ
出典：Wikipedia

まとめ：イーグル・クロー作戦のココがスゴイ

■ 作戦の背景

- 人質を必ず救出するという**目標**を確立し、

■ 作戦の計画

- たった2週間で**部隊**を編成し、大胆な**作戦構想**を決定し、

■ 作戦の準備

- たった5ヶ月で**人員・装備**を整え、**訓練と計画**を完成し、

■ 作戦の実行

- 隊員や人質の生命、戦争の勃発という**危険**を顧みずに作戦を**決行**し、

■ 教訓と対策

- 失敗しても直ちに**次の作戦**を準備し、**将来の作戦**に変革をもたらした。